

★誤注射を避けるための正しい持ち方

- オレンジ色のニードルカバーの先端に指などを押し当てると、針が出て危険です。絶対に行わないでください。
- 危険ですので絶対に分解しないでください。



<注射>

オレンジ色の先端を太ももの前外側に強く押し付けるだけで、バネの力により、一定量（約 0.3mL）の薬液が筋肉内に注射されるしくみになっています

- エピペンの上下先端のどちらにも親指をかけないように握る。
- 太ももの前外側以外には注射しない。
- 投与部位が動かないようにしっかり押さえる。
- 太ももにエピペンを振りおろして接種しない。
- 緊急の場合には、衣服の上からでも注射できる。



* 本人が打つ場合



* 本人以外が打つ場合

注射時に投与部位が動くと注射部位を損傷したり、針が曲がって抜けなくなったりするおそれがあるので、**投与部位をしっかり押さえるなど注意！**

5秒カウント

<確認>

注射後オレンジ色のニードルカバーが伸びているかどうかを確認する。

ニードルカバーが伸びていれば注射は完了。

（針はニードルカバー内にある）



- 注射後、薬液の大部分（約 1.7mL）が注射器内に残っていますが、再度注射することはできません
- 使用後のエピペンは必ず救急隊員（医療機関）に渡すこと
- エピペンはその人だけが使用するために処方されているので他の人に使用してはいけません





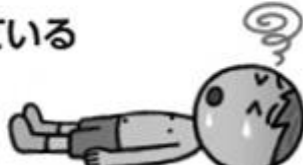
エピペンは、アナフィラキシーがあらわれたときに使用し、医師の治療を受けるまでの間、症状の進行を一時的に緩和し、ショックを防ぐための補助治療剤（アドレナリン自己注射薬）です。

あくまでも補助治療剤なので、アナフィラキシーを根本的に治療するものではありません。エピペン注射後は直ちに医師による診療を受ける必要があります。

救急車要請

< エピペンを使用すべき症状 >

●下記の症状が1つでもあらわれたら、できるだけ早期にエピペンを注射するとともに、救急車を呼びましょう。

消化器の症状	<ul style="list-style-type: none"> ●繰り返し吐き続ける 	<ul style="list-style-type: none"> ●持続する強い（がまんできない）おなかの痛み 
呼吸器の症状	<ul style="list-style-type: none"> ●のどや胸が締め付けられる ●声がかすれる ●犬が吠えるような咳 	<ul style="list-style-type: none"> ●持続する強い咳込み ●ゼーゼーする呼吸 ●息がしにくい 
全身の症状	<ul style="list-style-type: none"> ●唇や爪が青白い ●脈を触れにくい・不規則 ●尿や便を漏らす 	<ul style="list-style-type: none"> ●意識がもうろうとしている ●ぐったりしている 

●食物によるアナフィラキシー発現から心停止までの時間はわずか30分！！

誤食したら・・・

●絶対にその場から動かさない！！

立たせる、歩かせるは厳禁！！